



研
究
主
題

学習に難しさがある 肢体不自由児への 目標設定と指導の重点化

文部科学省 特別支援教育に関する実践研究充実事業
次期学習指導要領に向けた実践研究(3力年事業 1年次)



「学びの質」が高まる指導のあり方
について語り合いましょう！

「桐が丘L字型構造」による
系統的な指導実践を紹介



小・中・高等学校の
先生方もぜひ
ご参加ください！



期日

平成30年**2月1日(木)**・**2日(金)**

会場

筑波大学附属桐が丘特別支援学校

ご挨拶

筑波大学附属桐が丘特別支援学校は、文部科学省より今年度改めて「特別支援教育に関する実践研究充実事業（次期学習指導要領に向けた実践研究）」の委託を受け、当該学年の目標・内容、進度では学習が進みにくい児童生徒や、重度・重複障害を有する肢体不自由児に対し、指導の重点化を図ることで、子供たちが確実に学習を積み重ねることのできる指導のあり方について研究しています。次期特別支援学校学習指導要領では、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力が、「知識・理解」「思考・判断・表現等」「学びに向かう力・人間性等」に整理されました。学習に難しさのある肢体不自由児に対してこれらの資質・能力を、各教科等を通して育てるためには、指導すべき事項を見極め、指導の重点化を図る必要があります。また、近年、インクルーシブ教育の推進により、特別な教育的ニーズのある子供の多様な学びの場が保障されるようになってきました。その多様な学びの場において「学びの質」を保障するためには、やはり、指導する事項の本質を見つめ、その系統性や段階性を十分に踏まえた指導が求められます。

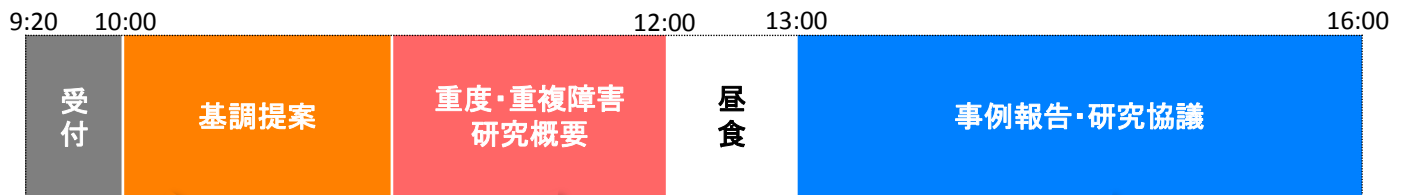
当校は、指導する事項の系統性を踏まえて指導の重点化を図るためには、作成した指導内容系統図やチェックリスト等の活用が有効であることを数年間の取組で明らかにしてきました。それらの活用、かつ一人一人の発達段階や障害特性を十分に踏まえた「桐が丘L字型構造」による指導の具体をご紹介しますとともに、資質・能力を育むことのできる指導の重点化のあり方について、ご参会の皆様と共に熱い議論ができますことを、当校職員一同楽しみにしております。ぜひともご参会くださいますようお願い申し上げます。



平成29年12月 筑波大学附属桐が丘特別支援学校長 宇野 彰

日程

2月1日 重度・重複障害児への指導

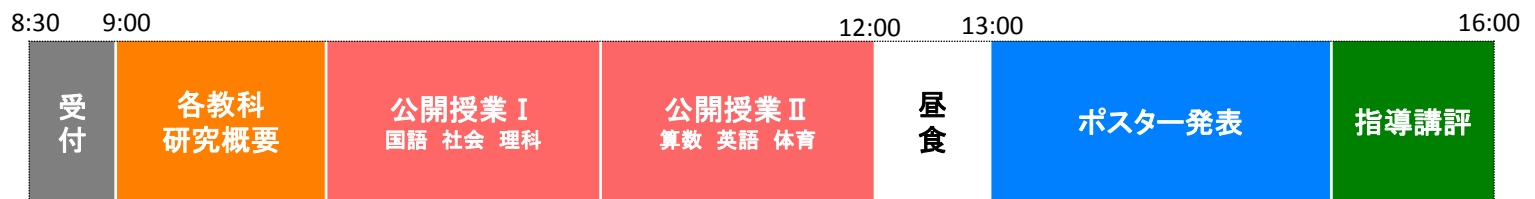


指導の重点化を図るためにおさえるべき考え方やその背景についてご説明します。

重度・重複障害児に対して、個の発達の全体像と発達の基軸を踏まえた授業づくりを行うためのシステムについてご説明します。

研究概要に基づいた指導実践をご紹介します。また、当校の授業づくりの考え方に沿って指導実践をされている研究協力校での取組もご紹介します。

2月2日 当該学年の学習が難しい児童生徒への指導



国語科、算数・数学科、社会科、理科、外国語科（英語）、体育・保健体育科の教科ごとに作成した系統表やその考え方に基づいた授業を公開します。自由にご参観ください。

各教科の研究概要とそれに基づく授業実践を、ポスター形式で発表します。

文部科学省初等中等教育局
特別支援教育課特別支援教育調査官
分藤 賢之 氏

各教科等の内容

■国語科

学習を通して、どのような力を身に付けてほしいのかを思い描いて授業づくりをしていますか？国語科では、指導の見通しを持って、身に付けさせたい力、そして、そのために重点を置く事項を明確にした授業づくりについて考えます。

■算数・数学科

算数・数学を学ぶことを通して育てたい力、そして、領域や単元を通して深めていきたい数学的な思考について検討しています。必要な知識や技能を用いて、自ら考え、問題を解決しようとする姿を目指した授業づくりについて考えます。

■社会科

社会科で重点的に育てたい力は「社会的な見方や考え方」です。子供たちが社会的な事象を比較したり関連付けたりして“主体的に思考している”姿や、学びの連続性を意識した授業づくりを日々模索しています。“思考している子供の姿”について語り合ひましょう。

■理科

実態把握に基づく指導目標の設定はどうしたら良いのでしょうか。私たちは、その手がかりとして、小学校理科の問題解決の能力に着目しました。児童生徒の問題解決の能力の把握から、指導目標を達成するための指導の工夫まで、実践を交えてご紹介します。

■外国語科(英語)

「英語が話せる」「活用できる」とはどのようなことをいい、私たちは生徒にどのような力がつくことを期待して、授業を実践しているのでしょうか。今年度は「語順」に着目した「話すこと」の実践事例から、教科の系統性に基づいた指導のあり方について考えます。

■体育・保健体育科

児童生徒の身体状況や運動の習得状況は様々です。体育の指導事項の系統性と児童生徒の実態から、どのように一人一人の指導目標・指導内容を設定すればよいのか、あわせて、児童生徒が同じ運動を行う中で指導目標を達成するための指導の工夫や手だて・配慮について考えます。

■重度・重複障害

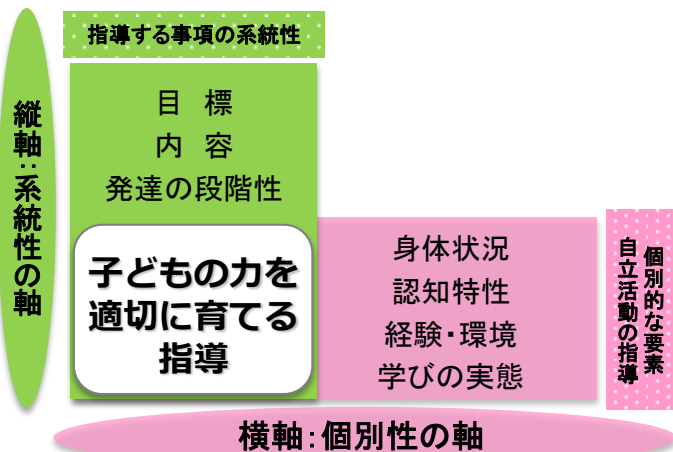
重度・重複障害児の指導の困難さの理由の一つに「実態の捉えにくさ」が挙げられます。

多様な様相を示す重度・重複障害児に対して、発達の系統性を踏まえて実態把握を行うにはどうすればよいのでしょうか。また捉えた実態をチームで共有し、授業づくりに生かすためにはどのような手続きが必要でしょうか。実践事例をもとに考えます。

研究協力者

国語	日本体育大学 筑波大学人間系	教授 准教授	長沼 俊夫氏 長田 友紀氏
算数・数学	国立特別支援教育総合研究所 千葉県立千葉聾学校	主任研究員 教諭	北川 貴章氏 鈴木 淳一氏
社会	筑波大学附属小学校	教諭	梅澤 真一氏
理科	カンボジア王国・王立プノンペン大学	客員教授	間々田 和彦氏
外国語(英語)	筑波大学人文社会学系	教授	卯城 祐司氏
体育・保健体育	横浜国立大学 筑波大学体育系	名誉教授 教授	山本 昌邦氏 松原 豊氏
重度・重複障害	NPO法人地域ケアさぼーと研究所 筑波大学人間系	理事長 教授	飯野 順子氏 川間 健之介氏

■「桐が丘L字型構造」による授業づくり



「桐が丘L字型構造」による授業づくりの考え方に基づいた指導の実際を紹介しします

■「指導目標・指導内容の重点化」のために



指導の重点化を図るために桐が丘が開発したツールの活用事例を紹介しします



文部科学省初等中等教育局
特別支援教育課
特別支援教育調査官

分藤 賢之氏

学習に難しさのある肢体不自由児の指導において、新しい時代に必要となる資質・能力を育む「カリキュラム・マネジメント」の実現、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、おさえておくべき指導のあり方・考え方を中心にお話をいただきます。



参加申込

お申し込みは当校ホームページにて受け付けます
参加申込フォームに必要事項をご記入の上お申し込みください

ホームページ
アドレス <http://www.kiri-s.tsukuba.ac.jp/>

申込期限 平成30年1月29日(月)

会場案内



参加費

5,000円
(学生2,500円)

両日、「イクス」(社会福祉法人むくどり)によるパン販売がございます。
数に限りはございますが、昼食の際ぜひご利用ください。

<振込先>

■郵便振替
番号 00140-4-722070
加入者名 研究協議会

■ゆうちょ銀行
支店名 〇一九(ゼロイチキュウ)店
種別 当座
口座番号 0722070
加入者名 研究協議会

<問い合わせ先>

筑波大学附属桐が丘特別支援学校(本校)
〒173-0037
東京都板橋区小茂根2-1-12
TEL (03)3958-0181 FAX (03)3958-3901
URL <http://www.kiri-s.tsukuba.ac.jp/>
E-mail kyougikai@kiri-s.tsukuba.ac.jp